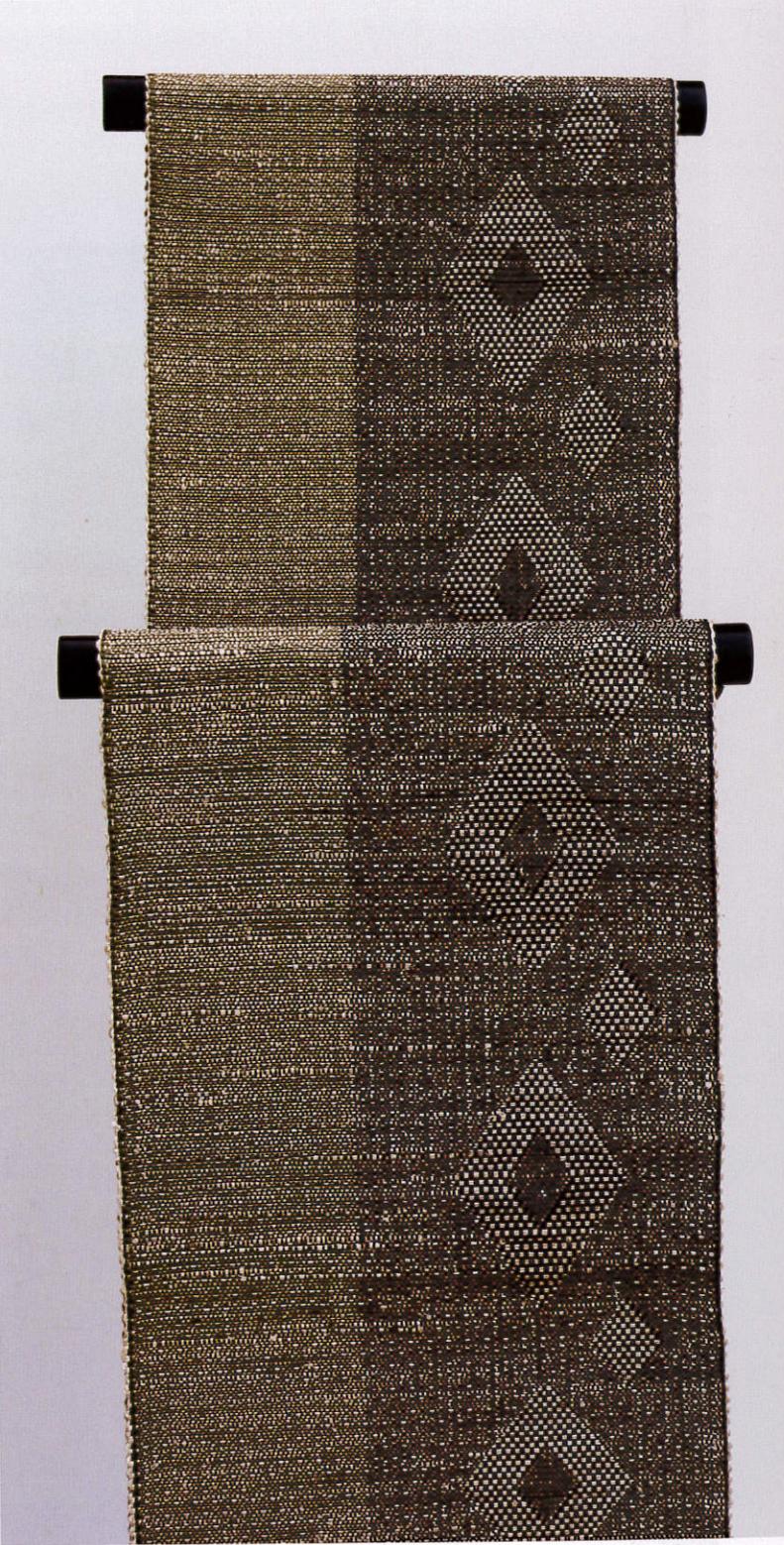




能衣装「シケの水衣」 2005



袋帯「藤づる春秋文」 2004



八寸名古屋帯「藤菱献上文」 2007

小石原 将夫 *Koishihara Masao*

縄文の時代より、人々は身の回りにある植物から纖維を探り出し、衣類や生活の布を織りあげていました。山野に自生する蔓から生まれる藤布もその一つ。かつては日本各地で織られ、古事記や万葉集に詠まれる程の古い布でしたが木綿の普及と共に消滅していき、唯一残った丹後地方では府指定の無形文化財としてその技術は受け継がれています。「一本の藤糸」に触れる度、先人達の計り知れない強い精神力や英知を感じます。

1948年京都府京丹後市生まれ。木の布工房「遊絲舎」代表、丹後藤織り保存会副会長、丹後藤布振興会副会長。1998年「丹後帯」第1号認定。2000年京都織物卸商業組合理事長賞。2001年全国地場産業優秀技術・製品奨励賞。2002年経済産業省製造産業局長賞。2003年日本紡織工業会会長賞。2005年農林水産省生産局長賞。2006年ベルギー、フランスにてジャパンブランド出展、2007年フランスにてジャパンブランド出展。きもの文化賞(財団法人・民族衣裳文化普及協会)。